

共生

奈良県生協連

2017年 7月

NO.105



第28期奈良県生協連総会



奈良こども食堂ネットワーク準備会主催
「こども食堂活動者情報交換会」



Peace Now! 奈良2017
奈良地方法務局敷地内に建つ奈良連隊記念碑

もくじ

奈良県生協連第28期通常総会	1・2
会員生協からの報告	3・4
おじゃましました～奈良県医療福祉生協の巻～	5
奈良こども食堂ネットワーク設立に向けて	6

Peace Now! 奈良2017	7
ヒバクシャ国際署名	8
3・11を忘れない	9
生協・行政協議会他	10

奈良県生協連 第28期通常総会を開催しました

2017年6月24日(土)奈良ロイヤルホテル

6月24日、奈良ロイヤルホテルにて第28期通常総会を開催し、1年間の事業のまとめと新年度の取り組み方針などを確認しました。会員生協役職員・組合員が参集し、常日頃支援いただいている行政・諸団体から多数のご臨席を賜り、参加者はあわせて91名となりました。会員生協の連帯と多くの関係者の方々に支えられていることを実感しながら、新たな一年のスタートを切ることができました。



承認された議案

- 第1号議案 2016年度事業報告・決算報告承認の件
- 第2号議案 2017年度事業計画及び予算案決定の件
- 第3号議案 役員選任の件
- 第4号議案 役員報酬決定の件

奈良県生協連2017年度の重点課題

- (1) 協同組合の理念を広げ協同の心が息づく取り組みをすすめます
- (2) 諸団体と連携・協同し、安心して暮らせる地域共生社会づくりに参加します
- (3) 平和とよりよいくらしの実現のための社会的諸課題を学び考える場をつくります
- (4) 会員生協の交流と連帯をすすめます



司会の加藤理事



瀧川会長 挨拶

ご来賓の祝辞



奈良県 姫野課長



森林組合連合会
田中専務



奈良県社協
竹内常務



日本生協連
小林局長



議長 関明子さん



議案提案 辻専務

瀧川会長が開会挨拶で核兵器禁止条約の交渉開始と協同組合の思想と実践がユネスコ無形文化遺産に登録されたことに触れ、平和とよりよい生活を求める生協の理念を強調しました。ご来賓の奈良県くらし創造部消費・生活安全課姫野課長からは、消費者教育や被害の未然防止などで連携を一層図りたいと期待の言葉を頂戴しました。奈良県森林組合連合会の田中専務は森林分野の現状を紹介、協同組合間協同を呼び掛けられ、奈良県社協竹内常務は安心して暮らせる地域共生社会に向けた共通の課題での連携を求められました。また日本生協連関西地連小林事務局長からも様々な課題について全国の生協の仲間との連帯の呼びかけと応援をいただきました。

議長にならコープ代議員の関明子さんが選出され議事に入り、議案の一括提案の後、会員生協の活動報告がありました。代議員27名中書面を含む全員の出席で採決し、全議案が賛成多数で可決承認されました。

総会ご臨席の皆様(順不同)

奈良県くらし創造部消費・生活安全課課長
奈良県くらし創造部消費・生活安全課主査
奈良県森林組合連合会代表理事専務
奈良県社会福祉協議会常務理事
日本生活協同組合連合会関西地連事務局長
奈良県消費生活センター所長
近畿労働金庫地域共生室長
NPO法人なら消費者ねっと理事長
奈良県地域婦人団体連絡協議会会長

姫野 隆昭様
高橋 弥生様
田中 俊雄様
竹内 輝明様
小林紀久子様
上中 三恵様
浦田 和久様
北條 正崇様
中島 祐子様

61通の祝電・メッセージを頂戴しました。ありがとうございました。



司会の山原理事

懇親会で親睦を 深めました



近畿労働金庫 浦田室長



奈良県地婦連 中島会長



懇親会写真

総会後の懇親会は今年も、ご来賓の諸団体の方から大学生協学生委員まで、幅広い年代が参加する多世代交流の場となりました。近畿労働金庫の浦田室長や奈良県地地域婦人団体連絡協議会の中島会長から、それぞれの活動の紹介や奈良県生協連への期待の言葉をいただきました。また、会員生協の自己紹介コーナーでは、それぞれ工夫を凝らして、自生協のいいところのアピールやクイズなどがあり、楽しく盛り上がりしました。

2017年度の新役員体制

長らくお世話になりました



新会長 森 宏之さん

森 宏之 新会長挨拶

今回の総会で、2017年度の事業方針をご承認いただきました。その実行・執行にあたりましては、初代の繁田会長、二代目逸見会長、そして三代目瀧川会長が引き継がれてこられました。生協運動の理念に忠実である奈良県生協連のよき伝統を守りとおしたいと決意しております。平和を愛し、よりよき生活をめざす生活協同組合が奈良県下にすみずみに広がるよう努力をいたします。また、今日に至るまで積み上げられた奈良県生協連のさまざまな分野での協同組合との連携、奈良県行政をはじめとした各市町村様、各種団体様との「和」の精神にのっとり「よき関係」を継続してまいりたいと考えております。

皆様のお力をお借りしまして、努めてまいりますので、ご指導とご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。



退任された瀧川潔会長
(逸見啓さんとともに
名誉会長に就任されます)

2017年度新体制

役 職	氏 名	所 属
会 長	森 宏之	員外
副 会 長	野崎 敏明	奈良県労働者共済生活協同組合
専務理事	辻 由子	市民生活協同組合ならコープ
理 事	中野 素子	市民生活協同組合ならコープ
理 事	小松原 尚	奈良県立大学生生活協同組合
理 事	柏原 勇介	生活協同組合コープ自然派奈良
理 事	加藤 由美	奈良女子大学生生活協同組合
理 事	石間奈穂子	奈良教育大学生生活協同組合
理 事	立石 昭彦	生活クラブ生活協同組合
理 事	仲宗根迪子	奈良県医療福祉生活協同組合
理 事	山中 教義	市民生活協同組合ならコープ
理 事	山原 縁	奈良工業高等専門学校生活協同組合
監 事	稲津 和之	奈良県労働者共済生活協同組合
監 事	松村 由美	市民生活協同組合ならコープ

よろしくお願いします!



新任理事 山中教義さん



新任監事 松村由美さん



お疲れ様
でした!

◀退任される監事
吉川英子さん

会員生協からの報告

奈良県労働者共済生活協同組合

吉成 彰一さん

全労済は保障の生協として様々なリスクに対して保障をしている生協です。地震や台風に対して保障する



「住まいの共済」の取り組みとして保障相談窓口を持ちそのなかで防災・減災啓発活動を行い、住まいの保障点検活動に取り組みました。また今年度は初めての試みとして奈良県下の大学生協と連携し卒業予定者へ「住まいの共済」の紹介活動ができました。全国的な活動として、昨年4月の熊本地震では2度の震度7を記録し甚大な被害が出ました。今でも多くの方が避難生活をおくられています。地震発生から一日も早く共済金支払いができるように奈良県を含めて全国から数多くの役職員が現地に入り各市町村の現場での被害調査を行いました。その結果約136億円の共済金、お見舞金を支払うことができました。

奈良県立大学生生活協同組合

谷邨 透哉さん

「みんなに寄り添うみんなの生協」をスローガンに今年度は活動しました。2016年後期から始まった耐震工事の影響で食堂が一時休業となりました。購買は別館のスペースをお借りして営業、昼食はお弁当を販売することになりましたが、「どんな商品が販売されるのかわからない」「組合員のニーズもわからない」。そこで「お弁当博博」という企画を行い購買で販売するお弁当を展示、試食してもらいアンケートを実施しました。組合員にセットメニューを選んでもらい学生委員がそれを試食し1位から10位を決定しTwitterやポスターで結果発表しました。またそのメニューを1週間ごと10週にわたり販売し、組合員に食生活を考えるきっかけを作ることができました。またみんなで運営できることを知ってもらうきっかけにもなりました。今後も小規模大学の強みを生かした自分たちらしい活動ができればと考えています。



奈良工業高等専門学校生活協同組合

下津 愛未さん

眞田 将希さん

笹治 卓矢さん



新入生歓迎企画では毎年新入生の半分以上が参加します。春と秋の自転車点検、通常総会には107人の参加がありました。7月のかき氷企画は3日間とも雨でしたが無事目標を達成できました。食生活相談会は栄養士さんに来ていただき直接自分の食生活が相談できる企画となりました。1月の「タヌロー喫茶」も3日間開催しました。同好会は週に一度食堂で会議をもち企画運営の話をしています。奈良高専生協は20周年を迎え同好会では2つの新しい企画を行いました。1つ目は10月末頃の「生協成人式大抽選会」です。期間内に購買利用1000円分のレシートを応募用紙に貼って応募参加できる企画では163名の参加、32人に豪華景品が当たりました。2つ目はストップウォッチを見ずに20秒を計る「とめろ! 20!」です。参加者246人、24名に豪華景品が当たりました。3月2日には高専生協説明会を開催し新入生と保護者に学校生活と生協を知ってもらい食堂利用券を配布し食堂体験をしていただきました。

奈良教育大学生生活協同組合

福田 聖華さん

今年度は大学との関係が深まりました。初めての試みとして7月「オープンキャンパスweek」を行いました。また広報課と一緒に奈良教育大学マスコットのなっきよんのlineスタンプ製作にも関わりました。また新学期企画の際には大学の学長や事務局長に来ていただき生協学生委員会のことを知っていただくことができました。このことは次につながるのだと考えています。新しい試みとして新入生歓迎企画を2日間やらせていただきました。また、2年ぶりに共済ボードを作成し2016年度の京滋奈良エリアフェスティバルで優秀賞をいただくことができました。書籍を盛り上げようと学生棚にも力を入れました。今年度はいろいろな新しい取り組みや大学とのつながりができたことで次につながったと考えています。



奈良女子大学生生活協同組合

瀧 千秋さん



「みんなが生協の主人公～組合員として一人一役を持ち、つながり・感謝の輪を広げよう～」をスローガンに活動しました。生協や生協学生委員会の存在意義やそれぞれの企画の目的を組合員に知ってもらおうと、新入生の総代さん25名に総代会とはどういうものか、どういことをするのかを知ってもらうためプレ総代会としてお茶会を食堂で開催しました。総代会の分散会で意見を出す雰囲気を感じてもらうため、今年度カフェ5周年企画を考えてもらいました。7月の2回目のお茶会では、総代会で提案されたお菓子のアフガードを試食後、感想やアドバイスをもらい、popやポスターと一緒に作成し、総代の声が届いたことを実感してもらいました。11月3回目のお茶会ではベジサンド試食、鍋メニューの考案などで総代のメリットを感じてもらいました。「生協には何ができるのか」「どんなことを何のためにやっているか」を伝え、組合員からの意見や要望を総代会や一言カード・アンケートで伝えてもらい、企画の目的にも注目してもらいました。

市民生活協同組合ならコープ

田村 佳代子さん



組合員とともに北エリア「おいしくたのしく健康に」中エリア「ルーツdeしょくみケーション」南エリア「チョ～元気」をテーマに食育活動に取り組みました。またならコープ産直商品である生協牛乳のふるさと大内山酪農を訪問し、乳牛、牛乳工場の見学、生産者との交流をしました。JAならけんとならコープで進める「地産地消をすすめる会」では米作り体験企画として明日香村にて6月に田植え、10月に稲刈り体験を行いました。こども新聞「にじのはし」の子ども記者の取材もありました。また、県内耕作放棄地を活用して栽培しているサツマイモの親子収穫体験も行いました。ならコープネットを中心に産地や工場見学、生産者・メーカーを招いての学習会を開催されました。毎年行われる産直交流会では産直の取り組みや生産者の思い、組合員の願いを直接交流する場となっています。昨年は北海道、熊本、千葉県など産直産地が自然災害に見舞われ応援メッセージをお送りしました。これからも組合員とともに産地を応援する取り組みを進めていきます。

生活クラブ生活協同組合

城本 壘さん



今年度3回目となる「春の青空大試食会」を3月4日に開催しました。この催しは、今まで注文したことなかった消費材を味見するのではなく生産者との交流を目的としています。年々参加される生産者が増え、日ごろ疑問に思っていること、消費材へのこだわりを聞くことができました。また、関西の生活クラブ共催で、作る側と食べる側が、お互いに知り知らせる民衆交易という取り組みとして、フィリピンネグロス島のバラゴンバナナの産地を訪問しました。ネグロス島はサトウキビの産地でしたが砂糖の暴落により飢餓となり、それを救済しようとバラゴンバナナの生産が始まりました。参加者は収穫体験、選別体験し、今年度は現地の教育現場が見たいとの声から現地のホマイホマイ小学校を訪問しました。また、生協で取り組んでいる活動をプレゼンテーションし、現地の生産者やスタッフに生協の仕組みを理解してもらいました。これからも安心安全なものだけに目を向けるのではなく、生産者の生活や思いにも目を向けていきたいと思っています。

奈良県医療福祉生活協同組合

谷川 規矩子さん



2016年の創立5年で初めて黒字を計上することができました。特定健診受診者も昨年の年間380人から417人となり、組合員・地域住民の健康づくりに貢献することができました。

2017年は医療生協の組合員の新しい担い手を育成し、組合員の加入と増資を呼びかけ健診運動を一層進めます。また、地域の孤立者をなくすため居場所づくりや、組合員の教えあい、機関紙「すこやか」は手配りボランティアの方々の力を借りて組合員とのつながりづくりを進めていきます。

地域の委員会では様々な活動、企画を通じて生協と地域をつなげ、組合員の声を生協に届けます。さまざまな団体とも協力して「つながり、よりよい、ささえあい」社会づくりをめざします。特定検診・長寿健診・がん検診の受診を働きかけます。奈良県生協連とともに「いつでも健康チャレンジ」に取り組みます。

2017年度もご支援、ご協力よろしくお願いします。

コープ自然派奈良は自生協の総代会のため、出席できず文書報告となりました。

おじゃましました ～奈良県医療福祉生協の巻～ 創立5周年記念式典

4月15日、奈良県橿原文化会館小ホールにて、奈良県医療福祉生協の「5周年記念式典」が開催され取材に伺いました。

奈良県医療福祉生協は、2012年3月31日に設立総会が開かれました。設立時の賛同人は1,108人でしたが、現在は5,450人になり、出資金も1,730万円でしたが、現在は7,900万円になっています。5年間で振り返り、次への夢に向かう機会となりました。



奈良県橿原文化会館小ホール入り口
設立総会も同じ会場でした

奈良県医療福祉生協理事長
仲宗根迪子氏あいさつ



役職員関係者全員で感謝のあいさつ

式典プログラム

- ・ 5周年式典 開会あいさつ、来賓あいさつ
- ・ 記念講演会
「医療福祉生協の過去・現在・未来」
講師：日本医療福祉生活協同組合連合会
副会長理事 尾関 俊紀氏
- ・ 報告
「奈良県医療福祉生協5年のあゆみ」
奈良県医療福祉生協 理事長 仲宗根迪子氏
「みみなし診療所5年間のふりかえり」
みみなし診療所所長 金 幸富氏
- ・ 組合員・役職員による劇
「いしあるところに、道は開ける」



劇「いしのあるところに、道は開ける」

創立20年を迎えた奈良県医療福祉生協が舞台。県内に診療所も増え、メンバーも90歳を超える人もいますが、まだまだ元気。大きな夢に向かって頑張ろうという姿を組合員・役職員が演じられました。

5年のあゆみでは、初めての医療生協との出会いと、困難と励ましの中で設立された経過、みみなし診療所の開設やこれまでの取り組みが仲宗根理事長から映像を使って報告されました。みみなし診療所の金所長からは、当初の患者数が増えなかった苦悩や、その後鎮痛剤を使った「内視鏡検査」の評判とともに、患者数が増えてきているとの報告がありました。奈良県で初めての医療生協。困難はあると思いますが、演じられた劇のように、これからも大きな夢に向かって羽ばたいてほしいと願いました。

奈良こども食堂ネットワーク設立に向けて

こども食堂って？

地域の大人がこどもに無料または安価で食事を提供する、民間から始まった取り組みです。何らかの事情で、十分な食事を食べられなかったり、孤食のこどもたちに安心できる場所を提供しようということから始まり、今では地域すべてのこどもや親、地域の大人など対象を限定しない食堂も増え、全国に広がっています。奈良県内では、2015年12月に斑鳩町でこども食堂が立ち上がり、2016年には、上牧や八木、生駒、奈良市内でも次々に立ち上がりました。奈良県生協連は、各団体をつなぐ立場に関わり始めました。



2016年5月に開催されたこども食堂交流会
(主催：奈良県生協連 会場：ならコープ本部)
新聞社やNHKから取材があった

「奈良こども食堂ネットワーク」準備会

◆準備会の経過

2016年

2月 生協からの食材提供によりこども食堂をつなぐ可能性を探る目的で奈良県生協連の呼びかけで情報交換。

5月 すでにすすめている団体から個別に呼びかけ、奈良県内の「こども食堂交流会」を奈良県生協連主催で開催。53名が参加。
県こども家庭課からの助成金情報を共有化。

12月 生協大会で湯浅誠さんの講演会「ひとりぼっちをつくらない～子どもたちの未来と共生社会を考える～」を開催。その後の懇親会で行政や関係者の交流。

2017年

1月 課題など情報共有。17名参加。
「県域でのゆるやかなつながり」の必要性を確認

3月 ネットワーク化のための準備会に奈良県社会福祉協議会も参加。県域ネットワーク化に向け取り組み内容を検討。発足。19名出席。(第1回準備会)

4月 第2回準備会に17名出席。県内こども食堂の連絡先のリスト化。それ以降、月1回準備会開催。

6月 こども食堂活動者情報交換会開催。(主催：準備会) 44名出席。

8月26日 なら小地域福祉サミット2017の特別分科会として奈良こども食堂ネットワーク設立フォーラムを開催予定。

◆準備会の取り組み

- ① 県域ネットワーク発足に向けて取り組み内容検討
- ② 県内活動団体に呼びかけ情報交換とネットワークに関する意見交換を行う
- ③ なら小地域福祉サミット2017の特別分科会として設立フォーラムを開催する。同日、ネットワークを設立する。
「広がれこども食堂の輪！全国ツアー」の一環として開催調整中。



2017年6月開催のこども食堂活動者情報交換会
(主催：準備会 会場：ぶろぼの福祉ビル)

県内では「おてらおやつくらぶ」が2013年の大阪の母子餓死事件から思い立ち、2014年から活動を開始し全国の寺院などに呼びかけ発信しています。さまざまな主体に関わり、少しでも子どもを救える機会を地域に創る手助けになればと思います。

Peace Now! 奈良2017

奈良の過去（戦争との関わり）を知り
平和について考えよう

（後援：奈良県生協連）



6月11日(日) 奈良教育大学、奈良女子大学、奈良県立大学生協の学生委員さんたち7名の実行委員会により、「奈良の過去（戦争との関わり）」を知り考えるとともに、他の参加者との交流を通して自分の考えを深め、そしてこれから自分たちがどう行動していくべきなのかを考える」場として「Peace Now! 奈良2017」が開催されました。3大学の学生委員等46名とならコープや奈良県生協連から8名が参加しました。

ご近所さんの平和を巡ろう! ツアーは、6班に分かれ奈良聯隊のあった奈良教育大構内の弾薬庫、奈良公園、奈良女子大学構内奉安殿や奈良県立大学周辺など日頃は見落としている戦争遺跡を回りながら、戦争や平和について考えました。各戦争遺跡のところでは各班のグループリーダーが前日に、奈良の戦争遺跡に詳しい歴史教育者協議会会員の吉川好胤先生から、それぞれの遺跡について学んだことを熱心に説明しました。



奈良教育大構内に残る
元奈良聯隊の弾薬庫



▲奈良女子大構内に残る奉安殿。
天皇皇后の写真と教育勅語が
納められていた。



◀奈良県立大学の近くにある、奈良で
初めての空襲で亡くなった女の子を
供養するために集められたお地藏さん

終点の奈良県立大学で昼食交流後、鈴木知英子さんから「戦争は他人事ではない」というテーマで、戦争体験を聞きました。王寺で子どもの頃、飛行機から打たれた時の鈴木さんの体験の話は、70年以上を経ても大変生々しい記憶でした。鈴木さんは、「戦争を知らない世代だといわないで、戦争の本質を正しく知って正しく伝えてほしい」と話されました。

その後、班に分かれ「ワールドカフェ」形式で、今日一日通じて感じたことや大切だと思ったことや、さらに知りたいことやこれからやりたいことを話し合い共有しました。その後、平和な社会形成をめざし政治にかかわっていかこうとする意識を高め、相手の想いを知り自分の想いを伝えようと「コンセンサスゲーム」を行いました。感想交流もあり、夕方6時過ぎまで、熱心に話し合いました。



戦争体験を語る鈴木知英子さん

被爆者は核兵器廃絶を心から求めます

被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、
核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

HIBAKUSHA APPEAL

ヒバクシャ国際署名に ご協力をお願いします。

平均年齢80歳を超えた被爆者の方々が今しかない!!と、行動を起こしました。原爆の恐ろしさを誰よりも知る者として「二度とヒバクシャをつくってはいけない」と訴え、生きている間に何としても核兵器のない世界の実現を願っておられます。奈良県生協連からもこの署名にご協力力くださるよう、生協組合員と奈良県にお住いの多くの方々へ呼びかけます。

存在する限りは使われる!世界の核弾頭は10,135発あります。核兵器に勝者はいません。「核兵器では人々の安全は守れない」という「非人道性」を根拠に核兵器廃絶の議論がすすみ、今、国連で「核兵器禁止条約」が議論されています。

わたしたちがすぐにできること、それはこの国際署名に協力して国連に届けること、想いを世界に発信することです。

被爆者の話に耳を傾け、みんなで平和のことを考えましょう。そして日本から、奈良から想いを届けましょう。

安心して暮らせる核兵器のない平和な世界を願って。

※この署名は、国連に提出します。
署名用紙が必要な方は奈良県生協連にお問い合わせください。

特定非営利活動法人なら消費者ねっと第2回通常総会

記念学習会「ひろげよう!消費者の輪」

6月5日奈良県弁護士会館3階大会議室にて「ひろげよう“消費者の輪”」には45人参加があり、奈良女子大学准教授大塚浩氏による消費者問題の学習講演を聴きました。

大塚先生は「法・社会・消費者—消費者法とNPOの新しい役割について考える」というテーマで、消費者問題の発祥から今日の市民による消費者運動のかかわりについて詳しく講義されました。NPOの社会的役割は非常に大きいと消費者運動の意義を先生は強調されました。

そのあと、4つの取り組み報告がありました。なら消費者ねっとの鍵谷邦子さんから子どもの金銭教育「おかねのひみつとつかいかた」出前講座と県の委託を受け作成した「おこづかい帳セット」について報告がありました。「おこづかい帳セット」はこのほど(公財)消費者教育支援センターの教材資料表彰の優秀賞も受賞されています。次に奈良女子大学消費者問題研究会「BEACS」の山田斐奈子さんと菊池美智さんが県消費生活センターとの連携で行ったパネル展示や大学内での啓発活動など「大学生が取り組む消費者教育」について紹介しました。続いて、奈良県消費・生活安全課の夏秋智行係長が、奈良県消費生活条例に基づく告示改正について説明され、「訪問販売お断りステッカーを貼ることは勧誘を拒絶する意思表示になる。」と話されました。最後に北條正崇理事長がなら消費者ねっとのトラブル事案改善検討の活動について報告し、契約の時疑問に思ったことや変な広告を見かけたら情報を寄せてほしいと呼びかけました。



奈良女子大学 大塚浩准教授

3.11を忘れない

みやぎ生協から
被災地・宮城のいまをお伝えします

地域に、人が集まり、 仲間が助け合える場をつくる 戸倉漁師の会



2017年6月5日

宮城県沿岸の漁港142ヶ所はすべて震災で甚大な被害を受けました。とくに漁港と集落が一体となった地域は生業だけでなく暮らしの基盤も失い、住民離散による故郷消滅の危機にも見舞われました。

南三陸町戸倉は、リアス式海岸沿いに水戸辺、波伝谷などの集落と中小の漁港が点在する地区です。震災で漁港も養殖設備も壊れ、多くの漁業者が船と家屋を失いました。

その戸倉地区に2年前、新鮮な海の幸や山の幸を提供する「感謝祭」の開催とオリジナルの商品づくりに取り組む漁業者のグループが誕生しました。「戸倉漁師の会」です。

会長の松岡孝一さんは「震災を経て戸倉の漁師たちの結束はより強くなった」と言います。戸倉には、同じ町内の志津川や歌津のように人が集まる商店街も復興市もありませんでした。そこで全国から寄せられた支援への感謝を込めて、月1回、第2日曜日に波伝谷漁港で“海あり、山あり、美味しいもんあり”の「戸倉漁師の会 感謝祭」を行なうことにしたのです。感謝祭は今年の5月で15回を数えます。毎回、石巻や仙台からの観光客はもちろん、他の町へ移住した人たちも戻ってきて、故郷の賑わいを体験していきます。

また漁業の6次産業化を目指し、カキを酒粕で漬けた「ほろ酔い牡蠣」やヒジキのシバ漬けなど新たな商品開発にも挑んでいます。

震災から6年、高台への集団移転が終わり、港湾施設の復旧も進みました。一方、ホヤが輸出できずカキも思ったほど価格が上がらない、後継者が不足しているなど、まだ苦労は続きます。

「漁師の会のメンバーは現在10数名。戸倉には100人前後の漁業者がいる。イベント会場などの課題はあるが仲間を増やしていきたい」と松岡さん。「海に出られなくなった年配の漁師を、仲間の若い漁師が手伝うことができる」と期待します。村岡賢一さんも「楽しみながら仕事ができるような仲間づくり、地域づくりが大事」と話します。

「漁業も暮らしも、本当に大変なのはこれから」と松岡さんが言うように、被災地の復興はまさにこれからが正念場です。



日本で初めて養殖版海のエコラベルと言われるASC国際認証を受けた戸倉のカキを、酒粕で加工した「ほろ酔い牡蠣」。



水戸辺漁港で戸倉漁師の会の皆さん。
左から松岡孝一さん、村岡賢一さん、小野寺喜義さん、佐々木和志さん。

2017年度 第1回 生協・行政協議会を開催しました 5月11日 奈良商工会議所



2017年度第1回生協・行政協議会を5月11日に開催し、奈良県消費・生活安全課の姫野隆昭課長他3名の職員の方と奈良県生協連役員他16名が参加しました。はじめに奈良県から食品安全や消費者行政など課の取り組みの説明がありました。そのあと今回は、奈良県生協連の本年度方針に続き出席役員からそれぞれの会員生協の取り組みを詳しく紹介し、行政・生協双方が互いに理解を深めることができました。そしてよりよい暮らしをつくっていくには県行政と生協が連携していくことが大切との思いを新たにしました。

ならコープが平成29年度ベスト消費者サポーター章を受章



ならコープは、消費者庁の平成29年度消費者支援功労者表彰で「ベスト消費者サポーター章」を受章しました。この表彰は、消費者利益の擁護、増進のために活躍した個人・団体の功績を表彰する制度として1985年から実施されています。ならコープは「吉野共生プロジェクト」を通じた環境保全や産業振興などの取り組みや、県内消費者のネットワーク組織NPO法人なら消費者ねっとの設立にも寄与し消費者への啓発や教育に継続して参画してきたことなどが評価されました。

5月20日(土)ならまちセンター市民ホールで開催された「消費者フォーラムin奈良」で伝達式が行われ、奈良県くらし創造部の枡田部長から森理事長に、賞状とメダルが贈呈されました。

奈良県生協連も2011年に受章しています。

アースデー2017inなら 「もっと²地球にエエコト一緒にしようや!」

4月23日国営飛鳥歴史公園 石舞台にて、ならコープ主催、奈良県生協連共催の「アースデー2017inなら」が開催され、天候にも恵まれ、一般観光客も含め約2,300人が参加しました。ならコープがすすめる環境政策に基づき「エネルギー政策」「吉野共生プロジェクト」「菜の花エコプロジェクト」、さらに「一般財団法人再エネ協同基金」の紹介や、ならコープ環境保全活動助成団体、奈良県南部東部地域行政、など45団体が出展しました。奈良県医療福祉生協のブースでは健康チェックが行われ、健康相談をされる方で賑わいました。奈良県生協連も「健康チャレンジ」への取り組みの呼びかけを行いました。



また、奈良公園登大路園地一帯では、4月22日にコープ自然派奈良なども参加する「アースディ奈良2017」(アースディ奈良2017実行委員会主催)が開催され、観光客も含む約7,000人の参加者で賑わいました。

県連日誌

4月

- 3日 新年度県庁訪問
- 6日 日本生協連近畿地区総会議案検討会議
- 15日 奈良県医療福祉生協創立記念式典・記念行事
- 17日 第2回奈良こども食堂ネットワーク準備会
- 23日 アースデー2017 in なら
- 25日 食品表示基準の一部を改正する内閣府令(案)に関する意見書を提出。
- 28日 生協組合員理事交流会実行委員会

5月

- 9日 2016年度末監事監査
- 11日 第7回奈良県生協連理事会
- 11日 第1回行政・生協協議会
- 13日 ならシニア元気フェスタ
- 18日 奈良高専生協総会
- 22日 第3回奈良こども食堂ネットワーク準備会
- 25日 奈良県立大学生協総会
- 25日 奈良教育大学生協総代会
- 26日 奈良女子大学生協総代会

6月

- 3日 なら消費者ねっと総会
- 9日 ならコープ総代会
- 10日 クレちは第31回シンポジウムin奈良
- 11日 Peace Now! 奈良2017
- 12日 生活クラブ生協総代会
- 13日 子ども食堂活動者情報交換会
- 16日 日本生協連第67回通常総会
- 17日 奈良県医療福祉生協総代会
- 20日 ピースアクションをすすめる会
- 24日 奈良県生協連第28期通常総会
- 24日 奈良県生協連第1回理事会
- 24日 コープ自然派奈良総代会

お知らせ

予告 ピースアクション in なら2017

- 日 時：2017年9月30日(土) 10時～12時30分
- 会 場：奈良商工会議所4階中ホール(90名定員)
- 主 催：奈良県生活協同組合連合会 ピースアクションをすすめる会

講演「核兵器を取り巻く世界情勢」

公益社団法人広島平和文化センター 常務理事 岩崎 静二氏



この他被爆者の証言や寸劇も予定しています。

編集後記

これから蒸し暑い季節、毎日持参のお弁当もこの時期は傷みのリスクを回避してお休みです。味は今一つでも器や色合いを楽しめる自前お昼ご飯の世界としばし離れ、コンビニのお世話になる夏：でも今年は恋の窪カフエのカレーランチがある！残念な夏を乗り切れそうです。

(由)

今年も大学生協学生委員による「ピースナウ in なら」が開催されました。参加者の真剣に学び、考えあう、そして身近なところから戦争や平和について熱心に話し合う姿が印象的でした。「日本の未来は明るいと思う学生は26%」だそうです。このような取り組みが継続できれば変わるかなと思った1日でした。

(和)

孫のひなちゃんが生まれてから、世の中の見方が変わってきました。米国はパリ協定から離脱を表明。2050年ひなちゃん33歳。そんなに遠くない将来。そのころの気候変動問題はどうなっているのでしょうか？また暑い暑い夏がやってきます。

(順)

梅雨空が明けると暑い夏がやってきます。夏はあまり好きではないけれど、夜店と花火は好きです。近頃は風物詩と言われる音(除夜の鐘など)が騒音だとの苦情で中止しているところがあるそうです。夜空に咲く花火はなくてはならない欲しいと願うばかりです。

(佳)